

平成26年度 学校評価書

京丹波町立和知小学校

平成26年度 学校経営計画兼学校評価

京丹波町立和咲小学校

学校経営方針	前年度の成果と課題	本年度の学校経営の重点	評価	
			自己	関係
<p>【学校教育目標】 いつだって精いっぱい輝く わたしがすき・きみがすき 【合言葉】 元気が一番 輝け！ 和知の子</p> <p>【めざす児童像】 わちのこ 《育てたい3つの力》（京都府教育振興プラン）との関係 「わ」： わたし・あなた、世界に一つの命 …《展望する力》 「ち」： 小さなこと、毎日続けて大きな力 …《挑戦する力》 「の」： のりこえて、たかひに認め合う仲間 …《つながる力》 「こ」： このまちは、未来をつくる宝島 …《包み込まれているという感覚の実感》</p> <p>【学校経営方針（中期経営目標）】 ＜京都府教育振興プラン重点目標による＞ (1) 質の高い学力をはぐくむ (2) 規範意識や人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性をはぐくむ (3) たくましく健やかな身体をはぐくむ (4) 一人一人を大切に、個性や能力を最大限に伸ばす (5) 社会の変化に対応し、よりよい社会の構築に貢献できる力をはぐくむ (6) 学校の教育力の向上を図る (7) 安心・安全で充実した教育の環境を整備する (8) すべての教育の出発点である家庭教育を支援する (9) 地域社会の力を活かして子どもを育てる環境をつくる (10) 生涯学習社会の実現に向けて学習環境を充実させる</p>	<p>【教育課程】 ◇和知小ならではの魅力ある教育の推進 ◇年間指導計画に沿った指導の充実（特に総合的な学習の時間「きらりタイム」等教科外の指導の充実）</p> <p>【学習指導】 ◇基礎・基本の定着のための取組（すすくタイム他）の充実 ◇互いに学び合う学習スタイルの確立（授業研究の充実） ◇発表力の向上（積極性、意欲、場に応じた声の大きさなど）</p> <p>【生徒指導】 ◇規範意識やコミュニケーション能力を高める取組推進 ◇あいさつ、廊下歩行、トイレのスリッパ前への3点は経年の課題</p> <p>【保健指導】 ◇基本的生活習慣の確立（早寝、早起き、朝ご飯）と体力向上の取組 ◇食に関する指導の継承（実績の継承）</p> <p>【安全指導・管理】 ◇登下校の安全指導（登校指導、下校パトロールの継続）、防災訓練の充実 ◇安心・安全な教育環境の整備（安全点検の継続）</p> <p>【学校組織体制】 ◇「報告」「連絡」「相談」の徹底と組織的な学校運営の充実による信頼される学校づくり ◇学校情報の積極的な公開（学校・学級だより、ホームページ等）</p> <p>【校種間連携】 ◇幼児・児童・生徒の交流活動の推進 ◇教職員の合同研修の実施</p> <p>【保護者・地域連携】 ◇地域の教育資源を学校教育に積極的に取り入れる。 ◇学校支援と地域貢献の双方向での連携強化</p>	<p>本年度の学校経営の重点 ～「和と知につながる確かな学び」の創造～</p> <p>(1) 学習指導要領の趣旨に則り「京都府教育振興プラン」や府の「学校教育の重点」及び「京丹波町教育振興基本計画」を活かした和知小ならではの魅力ある教育課程を編成し、計画的に実践する。</p> <p>(2) 基礎・基本の定着を図り、学習意欲を高めるとともに、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことをとおして質の高い学力を育成する。</p> <p>(3) 多様な体験活動や集団活動を通して、豊かな感性と安定した情緒の育成を図るとともに、道徳の時間等の指導により規範意識やコミュニケーション能力を高める指導を推進する。</p> <p>(4) 基本的生活習慣の確立と体力向上の取組、食に関する指導の充実をとおして、たくましく健やかな身体を育む。</p> <p>(5) 通学路を含む学校内外における危機管理・対策の充実を図ることにより、安心・安全で充実した教育環境の整備に努める。</p> <p>(6) 「報告」「連絡」「相談」の徹底によるきめ細かな指導体制を確立し、教職員の指導力の向上を図るとともに、学校情報の積極的な公開をとおして信頼される学校づくりをめざす。</p> <p>(7) 心身の発達や学習の連続性を重視した教育活動が展開できるよう児童・生徒の交流活動や教職員の合同研修等による校種間連携を積極的に推進する。</p> <p>(8) 地域による学校支援の取組を継承するとともに、学校による地域貢献の場の充実を図ることを通して、子どもの健全育成のための環境づくりを推進する。</p>	☆	☆
			B	B
			B	A
			B	B
			A	A
			A	A
			B	B
			A	A
			A	A

評価項目	重点目標	具体的方策（評価指標）		評価				成果と課題		
				中間	年度末	自己	関係者	自己評価	学校関係者評価	
(1)教育課程	<p>学習指導要領の趣旨に則り、府教育振興プランに基づく府ならびに町の教育重点の基本理念を活かした教育課程を編成し、計画的に実践する。</p> <p>一年間指導計画に沿った指導の充実と授業時間数の適切な進行管理</p>	<p>○学力状況を的確に把握し、年間計画に基づく特色ある取組を国語・算数科を重点として展開する</p>	<p>○学習指導要領・府教育振興プランに基づく学習活動についての研修と実践をすすめ、検証を行う。</p> <p>○京都府学力診断テストなどの結果を踏まえ、授業改善を図り、わかりやすく工夫した授業を行う。</p> <p>○月ごとの授業時数集計を指標として、計画的に学習指導要領が示す年間授業時数以上を実施する。</p>	<p>◎「学習指導要領・府教育振興プランに基づく学習活動について研修と実践がすすめられた」と、教職員の8割以上が実感できれば「B」とする。 (指標:教職員自己評価等)</p> <p>◎「学級では、わかりやすく工夫した授業をしている」と、教職員や保護者の8割以上が実感できれば「B」とする。 (指標:教職員・保護者アンケート)</p> <p>◎全教科・領域ともに標準時数を超えて実施できれば「B」とする。 (指標:授業時数集計)</p>	B	B			<p>・計画にそって概ね授業など行うことができた。今後も、児童の学力向上に努めていく。</p>	<p>・分かりやすく工夫した授業が学力向上につながっているようで、十分評価できる。</p>
		<p>○特別活動や総合的な学習の時間等教科外の指導を充実させることにより魅力ある学校づくりを推進する。</p>	<p>○土曜日活用による学校行事の開催や伝統・文化及び自らの思いや願いを大切にしたいクラブ活動を実施する。</p> <p>○「ねらい等」を記入した適案を作成するとともに、児童・保護者が学習活動の準備等に活用する。</p>	<p>◎土曜日活用による学校行事やクラブ活動について、肯定的な意見が8割以上あれば「B」とする。 (指標:児童・保護者アンケート)</p> <p>◎週学習計画により、授業準備ができている児童が8割以上あれば「B」とする。 (指標:教師の観察、児童アンケート)</p>	B	A			<p>・保護者の8割以上がわかりやすく工夫した授業がなされていると感じているが、実質的な児童の学力向上につながるものが今後の課題である。</p> <p>・どの教科・領域ともに標準時数を確保できた。</p> <p>・今後も家庭との連携を図り、学習の準備や土曜日を活用した教育の在り方を計画的に進めていく。</p>	<p>・各学年の授業を参観し、「わかりやすく工夫した授業」をされていると思う。自己評価にも課題とされおり、実質的な児童の学力向上につなげていくことを期待する。</p> <p>・「分かりやすく工夫」の項目で12%の保護者が何をもって『あてはまらない』と思うのか今後の課題でも感じる。</p> <p>・また、土曜活用も一歩ずつ進められていることが、急激な変化による諸問題が発生していない要因として評価する。</p> <p>・土曜活用に関しては、今年度実施した「自由参加」による事業との調整を行いながら実施することが職員の休暇措置の観点からも必要である。</p> <p>・特に土曜活用については、家庭及び保護者との連携を図ることで特別なイベントとの認識もあり、有意義に活用できたのではないかと。</p> <p>・今後の土曜活用の充実を図るために、活用参加の父親・母親及び祖父母・その他参加率の把握が必要である。(今後の世代間にあつたイベントの計画に生かす為)</p>
					A	A				
						B	B	B	B	

②学習指導	基礎・基本の定着を図り、学習意欲を高めるとともに、活用する力を育成することをおして質の高い学力をめざす。 一和知小学びのメソッドの確立による学力向上、「和と知につながる確かな学び」の追究と発展	○一人一人の学力の状況に応じた学習方法の工夫をする。	○本校の重点研究を積極的に推進し、「和と知につながる確かな学び」をめざして、互いに学び合う学習スタイルを確立する。	◎教職員の8割以上が工夫できたと実感できれば「B」とする。 (指標: 教師自己評価)	B	B	B	A	・研究授業等計画的に行った。先進校に学ぶ機会を得て、よりよい授業づくりに対して改めて意識することができた。	・家庭学習について、子どもと保護者の感じ方に相違が見られる。保護者が期待する家庭学習とは、又、保護者自身の取組についても、PTAと連携した取組が必要になると思う。
		○基礎・基本の徹底、知識・技能を活用する学習活動の充実を図り、質の高い学力をめざす。	○学習意欲を高め、「わかる授業」を工夫して行い、基礎的・基本的な内容の定着を図りながら質の高い学力につなぐ。	◎通知表で、以下なら「B」とする。 ・低学年は、「○」「◎」が全体の8割以上 ・中学年は、評定平均が「3.2」以上 ・高学年は、評定平均が「3.2」以上 (指標: 通知表の評価や評定)	A	A			・年間を通じて伝え合い、学び合うスタイルについて研究を進めることができた。 今後さらに学びあう児童の育成に努める。	・昨年度同様、教職員の工夫が生かされ、個々の児童を見つめた指導ができていたように感じる。児童の顔が、その場でよい顔をしていることにその成果を感じるとともに積極的に発言できる児童が増えたように思う。
			○「算数ナビつ〜」など、学習支援教材を活用して学習習慣の定着を図る。	◎教師の観察により、8割以上の児童に学習習慣が定着していると判断できれば、「B」とする。(指標: 教師の観察・はなまらくんめんきょ) ◎家庭学習の習慣が身に付いていると実感できている保護者が8割以上いれば、「B」とする。 (指標: 保護者アンケート)	B	B			・各学年ともクリアできた。 ・保護者アンケートは69%でCに近いが児童のアンケートは85%なのでBに上方修正。	・基礎・基本を大切にすることから、教職員全員が工夫されそのスタイルも一人一人の学力にあった指導がされている。
③生徒指導	豊かな感性、情緒の育成を図り規範意識やコミュニケーション能力を高めることにより、社会性の育成をめ	○生徒指導の3機能(自己決定・共感的人間関係・自己存在感)が生きた教育活動を推進する。	○問題解決的学習を進め、児童の興味や関心、自主性、創造性を大切にする。	◎「やればできる」と感じている児童が7割以上いれば「B」とする。 (指標: 児童アンケート)	B	A	B	B	・「やればできる」と感じた児童が94%であり自信をもって取り組むようになった。	・何より、学校が「楽しい」児童が93%を超えていることに対し評価できる。本校の生徒指導でこの項目がクリアできれば、他の細目に優先してAと評価してよい。
			○自分の意見や考えをじっくり話したり、友だちの意見をしっかりと聞いたりする話し合いの場を計画的に設定する。	◎「困ったり不安なときには、相談したり話したりする友達がいる」と感じている児童が8割以上いれば「B」とする。 (指標: 児童アンケート)	A	B			・低中学年で80%を超えないが全体としては80%。今後注意して指導を行う。	・家庭学習についても宿題・自主勉強の意識が高い様に感じられる。

	ざす。		<p>○朝の会、終わりの会を大切に、日常生活の中で自分の生活を見つめ、課題を明らかにし、自ら解決していく力を育てる。</p> <p>○児童の生活に関わるきまりを明確に示す。</p> <p>○重点期間を設け、児童の意識を高める取組を進める。(廊下歩行・スリッパ揃え等)</p> <p>○学習規律を確立し徹底させる。</p>	<p>◎「迷ったとき自分で判断して決めている」と感じている児童が8割以上いれば「B」とする。(指標: 児童アンケート)</p> <p>◎学校で、廊下歩行・スリッパ揃え・登下校の列など生活のルールが守れていると判断している児童が8割以上いれば「B」とする。(指標: 児童アンケート、教師の観察)</p> <p>◎教師の日常的な児童観察により、8割の児童がルールを守っていると判断できれば「B」とする。(指標: 教師の観察、記録)</p>	B	B		<p>・「迷ったとき」80%から79%と1%下がったが2学期は、多くのことを学び、自己判断する内容が増えたからではないか。</p> <p>・「学校で廊下…」についてはスリッパが77%廊下が75%と80%に達していないが全体から見ると以前よりよくなった。走ってしまう状況を考えさせるとよくなる。(ランチルームへ行くときの緑のマット、下校の時の集合での注意など)</p> <p>・「学校が楽しい」は92%以上の児童が楽しいと回答している。</p>	<p>パ揃えは今後も粘り強い取組を期待する。</p> <p>・「困ったときに相談できる友だちがいること」と「迷った時の判断ができる」「学校が楽しい」と感じる児童が多くいるということは素晴らしい成果と感じる。</p> <p>・友達を大切にすることにより、人間関係を基本とした友達、集団づくりができる指導の大切さを感じる。</p> <p>・友達や指導者の話を真剣に聞くことにより、積極的に行動する態度が育成されている。</p> <p>「やればできる」という意識を持つ児童が多くいることは大変素晴らしい、向上心を育むうえで重要な事であることは間違いない。ぜひ、継続して指導して頂きたい。</p> <p>・また、「相談できる友だちがいる」「学校が楽しい」と感じている児童が多い事は何よりの事であり、やはり一保護者としても安心感を感じる。ぜひ100%の児童が感じられる様な学校にする事を期待する。</p>
		○思いやりのある豊かな心を育てる。	○相手を思いやる心の表れの第一歩として、朝のあいさつが心を込めてできるように指導していく。	◎朝のあいさつが自ら進んで言える児童が8割以上いれば「B」とする。(指標: 児童アンケート、教師の実感)	B	B			
		○いじめを許さない温かい人間関係を基本とした学級・学校づくりを推進する。	○道徳の時間等の指導や学校行事、学級遊び、全校遊びなど体験的な活動を通して、社会性の伸長に努める。	◎学級が楽しいと感じている児童が8割以上いれば「B」とする。(指標: 児童アンケート)			A	A	
(4)保健指導	健康と体力づくり、食育の推進を図り、たくましい身体をはぐくむ。一朝の体力づくりの継続した取組・食に関する指導の充実	○始業前の朝マラソンや朝なわとびの活動を推進し、体力作りに積極的に取り組ませる。	○始業前の時間を活用してマラソン(4~11月)なわとび(12~2月)を実施し、各自が目標を持って基礎体力を養う。	◎目標をもって体力作りができたと判断している児童が8割以上いれば「B」とする。(指標: 児童アンケート、教師の観察)	B	A	A	A	
		○「食」の指導計画に基づき、食育の系統だった指導の充実を図る。	○食に関する年間指導計画に基づき、栄養教諭及び食育支援部会等の方々と連携し、指導の充実を図る。	◎教職員の8割以上が年間指導計画に基づいてできていると実感できれば「B」とする。(指標: 教師自己評価)	B	A		<p>・新体力テストに対応して新しい実践を導入し、シーズンごとに児童を飽きさせない工夫がされた。</p> <p>・計画通りスムーズに進行し、保護者アンケートでも高い評価であった。</p> <p>・個別の課題や学年に</p>	

								<p>よる傾向などは見られるが欠席率や保健室利用率はきわめて低く。保護者アンケートでの評価も高かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実施、職員研修も併せて実施できた。 	<p>ていることは児童にとって良い環境ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソン時は先生方も一緒になって走る等、児童の体力向上に努められている。「食」に関しても、好き嫌いができないような給食提供、何より楽しそうに食事している児童が多く感じられる。インフルエンザなどによる「学級閉鎖」などが無かった事はその結果であるようにも考える。 	
		<p>○基本的な生活習慣の大切さを知らせ、日々の生活に生かせるよう指導する。</p> <p>○学校保健会議を開催し、関係機関との連携を図る。</p>	<p>○児童の実態に合わせて児童のよさと改善すべき所を整理しながらよりよい生活を実践しようとする態度を養う。</p> <p>○学校保健会議を開催し、PTAや学校三師等とともに児童の健康や安全について協議する。</p>	<p>◎学年の発達段階に応じて生活習慣の大切さを理解し、健康な生活が送れている児童が8割以上ならば「B」とする。(指標:保護者アンケート)</p> <p>◎学校保健会議を開催し、児童の健康・安全について連携を深めることができれば「B」とする。(指標:教職員の自己評価)</p>	B	A				
(5)安全管理	<p>通学路を含む学校内外の危機管理・安全対策の充実を図ることにより、安心安全で充実した教育環境の整備につとめる。</p> <p>一防災対策・危機管理訓練の工夫推進、安全点検の定期的な実施等</p>	<p>○防災対策マニュアルに基づき避難訓練を実施し、自らの安全を守るようとする意識を高める。</p> <p>○日常的、定期的に登下校指導を行い、身を守るための交通安全などの意識を高める。</p> <p>○安全点検を定期的に実施する。</p>	<p>○防災対策マニュアルに基づいて避難訓練を実施し、地震・火災・洪水などの災害に対する基礎知識や実践力を身に付けさせる。</p> <p>○消防署など関係機関と連携し、より実践的な体験活動を取り入れる。</p> <p>○必要に応じて登下校指導を行い、児童の身を守るため、どのように気を付けたらよいか考えさせる。</p> <p>○遊具等の遊び方のルールを守れているかを見るときも、毎月1回安全点検を実施する。また、登校指導と合わせて、保護者とも連携して、通学路の安全確認を行う。</p>	<p>◎決められた安全行動がとれた児童が8割以上なら「B」とする。(指標:避難訓練計画書、教職員の観察)</p> <p>◎並んで登下校している児童が8割以上なら「B」とする。(指標:通学班会、教職員の観察・指導)</p> <p>◎毎月1回、安全点検を実施し、必要な対策を行うことができれば「B」とする。(指標:安全点検表)</p>	B	B	B	A	<p>・年度当初に基本的な避難訓練を実施したのは効果的だった。受け渡し訓練は保護者の協力のもと実施できた。</p> <p>・10月の訓練で児童の避難行動に課題があった。</p> <p>・南船保健大会にて危機管理訓練の取組に関して表彰を受ける。</p> <p>・ほぼならんで登下校できているが、地域によってばらつきがある。</p> <p>・定期的に安全点検を行い、事後対応もすみやかに行っている。</p> <p>・自転車の乗り方の指導を強化する必要有り。</p>	<p>・受け渡し訓練についてドライブスルーの車の流れ、渋滞の解消など一部今後の課題もあったように思える。</p> <p>・登校時における「並んで」の項目について、上級生のリーダーシップもよくできている。自転車については、今後の課題として、学校・保護者・地域が一体となった安全運転指導の必要があると考えている。</p> <p>・学校の登下校も昨年度に比べて非常によくなっている。こうしたことは家庭との連携が重要であり、今後も一層の指導を期待する。また、防災訓練をPTAを取り込み、災害時の下校訓練ができたことは、大きな一歩である。</p> <p>・高学年の児童が周囲の車両に気を付け、横断報道を渡っている姿を見かけ、安心感を持つ。確かに通学班によってバラつきがあるようにも見受けられる…。</p> <p>・避難訓練・受け渡し訓練に関し、様々な事を想</p>
					B	A	A	A		

											定しての訓練を実施されており、効果的である と考える。
⑥ 学校組織 体制の強化 (信頼される 学校づくり)	「報告・連絡 ・相談」の徹 底によるきめ 細やかな指導 体制を確立し 、教職員の指 導力の向上を 図るとともに 、学校情報の 積極的な公開 等をおして 信頼される学 校づくりをめ ざす。	○教職員間の報 告・連絡・相談を 徹底し、組織の 強化を図る。	○教職員間の報告・連絡・相 談を徹底し、組織の強化を図 る。	○教職員間で報告・連絡・相談を意識し て行い、組織の強化につながったと判断 すれば「B」とする。 (指標: 年度末総括)	B	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特に懸案事項や緊急性のあるものなど報・連・相ができた。 ・それぞれの部、担当が主体的に行事の企画・運営や日常の取組を推進できた。 ・対外的な研修会の機会も多く、参加できた。大切と判断したものについては、職員会議、校内研修の時に報告できた。 ・保護者アンケートで多くの保護者が経営方針を反映していると考えている。 ・ホームページについては、10万回のアクセスが1月中旬に達成、4月から2月上旬まで更新は、延べ数100回となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『学校だより』の全戸配布は評価できる。今後とも積極的な情報発信を期待する。 ・「報・連・相」を日常的に実践できたようであり、このことが組織の原点であり評価できる。また、課題であったホームページの更新も週1回が定着していることは、担当職員の表れである。今後地域からの信頼が得られるようにこうした取組を継続されたい。 ・校長を中心とし、先生方一体となり、児童達の為に学校を盛り上げていけると感じる。また、今年度も引き続き行われた「学校だより」の全戸配布は地域へのアピールにもなり、信頼される学校づくりに結びついていると考える。 ・学校・学年だより・ホームページへの期待度は大変高い所を望んでおられる保護者もいるが、確実に浸透しつつあるように感じる。更なる内容の充実に期待する。 	
		○総合教育センター、府・南船小教研等の研修に積極的に参加する。	○総合教育センター、府・南船井教育研究会等の研修会に積極的に参加し、学んだことをプテ研修会等の機会に教職員に伝達する。	○研修会に積極的に参加し、学んだことを教職員に伝達すれば「B」とする。 (指標: 出席状況、研修報告)	B	B					
		○経営方針を反映した学校・学年だより等を発行する。	○学校経営方針を反映した学校・学年だより等を発行し、PTA活動の内容も知らせる。	○保護者アンケートや学校評価委員会で経営方針を反映していると判断されたら「B」とする。 (指標: 保護者アンケート、学校だより綴)	B	B					
		○学校の教育内容をホームページで紹介する。	○教育内容を紹介するホームページ(学校・学年等)を公開し、週1回以上更新する。	○ホームページが、週1回以上更新できれば「B」とする。 (指標: 本校ホームページ)	B	A					
(7) 校種間連携	心身の発達や学習の連続性を重視した教育活動が展開できるよう、児童・生徒の交流活動や教職員の合同研修等による校種間連携を積極的に推進する。	○交流体験を中心とした保育所(わちエンジェル)との連携を行う。	○保育所(わちエンジェル)との計画的・継続的な連携の推進。	○保育所(わちエンジェル)との双方向での交流が複数回実施できれば「B」とする。 (指標: 開催計画、会議開催要項等)	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の特別支援研修や本校での研究会等双方の教職員が連携・交流できる機会が持てた。 ・もうすぐ1年生事業推進計画にもとづき計画的に連携することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度までの評価に対し、改善に努力された『さま』が評価できる。 ・「保小中」の連携が深まってきたようで喜ばしい。今後は、高校も関わりながら継続して取り組んでもらいたい。 ・それぞれの学校で忙しい現実であるが、児童生徒の激減により幼保・小・中学校と組編成が限定されている現実から、より精密なレベルでのなお一層の連携が必要である。 	
		○授業交流を含む小中連携を推進する。	○町教務主任会議と連携した中学校区別の研修会の機会等を活用して、授業研究を含む研修会・連携会議を計画・実施する。	○和知中学校との授業研究を含む複数回の研修・連携会議等が実施できれば「B」とする。 (指標: 開催計画、会議開催要項等)	B	B					
		○その他、多様な学校間や校種間の連携を行う。	○町内他小学校や高等学校、林業大学校と連携した教育活動を推進する。	○担当者の計画のもとに開催し、他校との連携が複数回できれば「B」とする。 (指標: 開催計画、会議開催要項等)	B	A					

(8)保護者・地域住民との連携	地域による学校支援活動の取組を継続するとともに、学校による地域貢献の場の充実を図ることをとおして、子どもの健全育成のための環境づくりを推進する。一学校支援と地域貢献による双方向での連携強化	○地域人材の支援を受けた教育活動を積極的に展開する。	○地域人材の支援を受けた教育活動を積極的、計画的に展開する。	◎支援を受けることにより、教育活動がよりよい内容になったと実感する教員が8割以上いれば「B」とする。 (指標:実践記録)	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年～6年まで、地域支援の皆様のご指導を受け、充実した授業や行事を進めることができた。 ・コーディネーターを中心に年に数回交流会や懇談会をもって、意見交流ができた。 ・それぞれ行事への取組を中心に連携し、共催行事や指導者の派遣等できた。 ・保護者アンケートを実施し、学校全体の結果は詳細に、各学年の結果は簡潔にまとめて保護者に返すことができた。 ・アンケートの内容について、来年度さらに検討をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに、学校が求めることに対し地域との連携を期待する。 ・保護者との連携が学年PTAを通して深まりつつある。また、今後は地域住民の方々が気安く多く関わってもらえるよう、支援者の固定化にならないよう、老人クラブや女性の会などの団体との連携も導入し和知地域全体で児童が見守られている環境を期待したい。 ・地域の生きた資源と人材を掘り起こしができ、その資源人材を学校教育の中に生かしていけた。 ・アンケートの結果を資料として地域委員・評価委員との話しあいの場を設定することにより、保護者及び地域の人に学校への関心が深められたのではないかと。(地域情報の提供)
		○学校評価委員会等への学校説明会・授業公開や教職員との懇談会を実施する。	○「うらら会」の活動とおして、学校評価委員会等への学校説明会・授業公開や教職員との懇談会を積極的・計画的に実施する。	◎説明会や懇談会が、学校評価委員や教職員にとって有意義であり、教育活動の活性化につながったと感じられれば「B」とする。 (指標:学校関係者評価表)	A	A				
		○児童や保護者等を対象にしたアンケートを実施し、結果を公開する。	○児童や保護者等を対象にしたアンケートを実施し、その結果を学校だよりやホームページ等により公開する。	◎各種のアンケートを実施し、その結果を公開して保護者の関心が深まったと感じられれば「B」とする。 (指標:アンケート集約結果)	C	B				

次年度に向けた改善の方向性		<p style="text-align: center;">学力の充実・向上</p> <p>学力の実態分析に基づく授業改善と基礎基本の定着、及び伝え合い学び合う力の創造に向けた研究と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習活動の展開 ・少人数、TT指導の実施 ・個に応じた指導の充実 ・学習意欲醸成のための取組 ・社会科教育の実践 ・特別支援教育の充実 	<p style="text-align: center;">魅力ある教育の推進</p> <p>地域連携事業や食育の推進、地域の伝統文化等を活用した和知小ならではの魅力ある教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域教材の積極的活用 ・外部人材による体験的学習 ・食育推進計画の見直し ・クラブ活動の更なる活性化 ・林業大学校等との連携した木育の検討 	<p style="text-align: center;">安心・安全の確保と健康教育の推進</p> <p>学校内外の安心・安全な教育環境の整備・充実と保護者・地域連携による豊かで健やかな心身の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策の推進 ・支え合える仲間づくり ・健康、安全に対する意識の高揚 ・課題に応じた体力づくり 	<p style="text-align: center;">その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和知校区のおすすめスポット作成 ・家庭内での役割で、手伝いの推進 ・教職員の各地域行事への参加 ・コンピュータの活用 ・地域支援として保護者の学校支援参画 ・その他
---------------	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価規準：A=十分満足できる、B=満足できる、C=一部改善が必要、D=改善が必要 とする。 ※数値目標ができる評価指標については、9割2分以上の肯定的な意見等があれば「A」とする。